

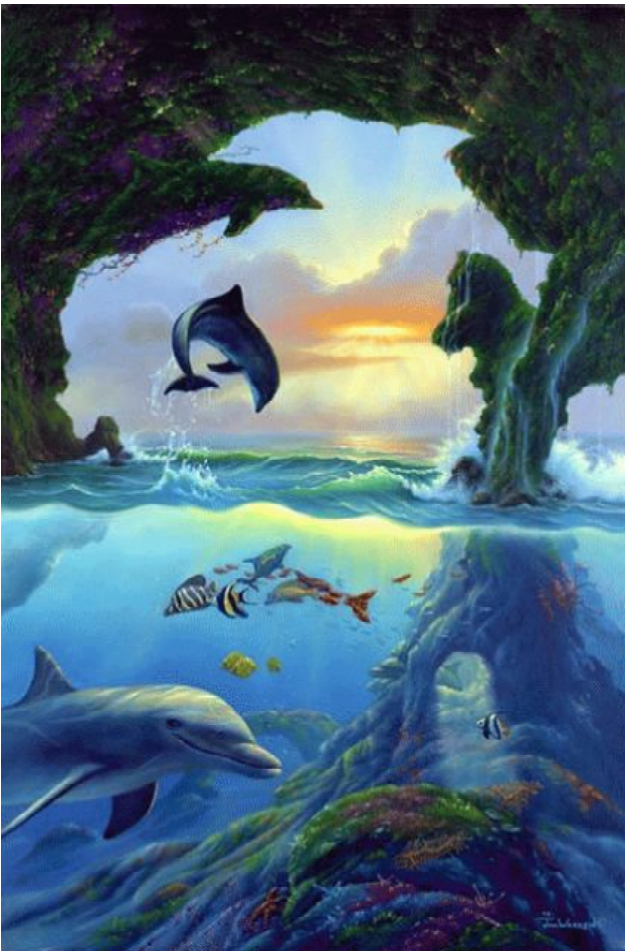
見方を変えると

一年八組 足立彩音

自分と他人の意見が違い、自分が間違っていたと気づいたことはあるだろう。

左の図を見てみよう。二頭のイルカが見えるであろう。しかし、他の物に注目してみると、何頭ものイルカがこの図の中に隠れているのが見えてくる。

このように、中心に見るものを変えると、今まで思っていた物とは違う物が見えることがあるが、このことは、日常生活の中でも起こることだ。印象が強いと、そのみに目を奪われ、注目し、周りは背景になってしまう。しかし、



逆に、周りに注目してみると、それまで印象が強かった物が、単なる背景になってしまう。

左の図を見てみよう。だれでも、シカは一頭だと思っであろう。しかし、図から少し目を遠ざけてみよう。すると、木の枝が集まり、一頭の大きなシカになって見えてくるはずだ。

これも、日常の中でよく経験することだ。遠くからだ小さくきれいな壁面に見えるビルも、だんだん近づいていくと同時に、大きく汚れた壁面のビルになってしまう。



このように、距離や中心に見るものを変えると、今まで見ていた物とは違ったり、別の印象が生まれたり、今までとは違う発見ができたりもする。だから、絵や図を見るときには、一面のみではなく、他の見方を試し、その物の別の面に気づいていくことが、新たな発見の糧となるだろう。